

○山本 美智子¹

¹昭和薬大

Choosing Wisely は、急速に広がっている国際的なキャンペーン活動で、簡単に言うと、「根拠に乏しいにもかかわらず実施されている医療行為を EBM の観点から見直し、適正な医療を目指す」活動である。それは、医療従事者と患者が、対話を通じて、科学的な裏づけのある、患者にとって真に必要で、かつ副作用の少ない医療（検査、治療、処置）の“賢明な選択”ができることをめざすものである。

2012 年に、米国の内科系学会 (ABIM) が、5 つのリスト (Top Five List) として、考え直すべき医療行為やその理由を提示したことに端を発し、現在は、世界各国の多くの学会や薬系の職能団体等もそれぞれの立場から 5 つのリストを提示している。2016 年には Choosing Wisely Japan が設立された。

医療従事者はプロフェッショナルリズムに基づき、患者自身にとって適正な医療を「賢明に選択」できるよう、対話を促し意思決定を共有すること (Shared Decision Making) が、この活動の最終目的である。

国内でも、近年、特に高齢者に対するポリファーマシーや抗菌薬の適正使用について注目が集まっている。将来にわたって持続可能な医療システムを支えるべく、特に無駄な医療に着目し、患者にとって「価値の高い医療 (High Value Care)」を実現しようとする取り組みの推進が望まれる。そのような状況の中、Choosing Wisely において、海外の薬剤師がどのような課題に取り組んでいるのかその活動を紹介し、今後、日本において薬剤師が担うべき役割や課題について考えてみたい。